

育友会「支部懇談会」始まる 前半は全国33会場

専修大学育友会(渡辺康一郎会長)の支部懇談会の前半が8月3、4日の両日、全国33会場で開催された。渡辺会長が函館、札幌の両会場に出席し、大学からは山下徳夫理事長が小倉と佐賀、出牛正芳学長が福井と富山の会場にそれぞれ出席したのをはじめ、大学を挙げて多数の教職員が会場に赴き、父母と懇談した。また札幌と兵庫の2支部では初の試みとして就職懇談会を併催した。後半は8月18日(日)、24日(土)、25日(日)の3日間、全国35会場で開催される。



前半は全国33会場

渡辺康一郎会長は8月3日函館支部の懇談会に、翌4日は札幌支部の懇談会に出席。

函館会場は、ホテルロイヤル函館に父母10人が、札幌会場の札幌グランドホテルには30人の父母がそれぞれ参加した。

渡辺会長は「44年目を迎えるこの懇談会は、子女の学生生活を知りたいというご父母の強い要望から発足したのですが、この会の良さが注目され、各大学から問い合わせが来ています。勉学や就職活動に励んでいるご子女の近況を、この機会にぜひお聞きになり、またご相談され、日ごろの疑問を解消してください」と呼びかけた。

父母らは大学を紹介するキャンパスビデオを視聴。大学側から「教務関係について」「学生生活・就職関係について」説明を受け、遠隔地に学ぶ子女のキャンパス生活の実情など理解を深めた。

昼食をはさんで、午後からは3時まで個人面談が続いた。

大学のレベルアップを推進 小倉会場 山下理事長



福岡(小倉)支部懇談会は8月3日、JR小倉駅舎内の「ステーションホテル小倉」で父母19人が出席、横田誠治支部長のあいさつで始まった。

山下理事長は「この有意義な支部懇談会は、他の大学にさきがけ昭和34年から始まり、今年44年目を迎える長い歴史があります。本日は多数の若々しいご父母に接し、この会をますます発展させていきたいと、意を強くした次第です。

私が本学の理事長に就いて以来、常に大学のレベルアップを念頭に、学部・学科の増設や校舎の新築、また就職対策本部長として力を注いで参りました結果、就職関連雑誌などに常に上位ランクされております。

いま、2年後の法科大学院の設置に向け、全学一丸となって取り組んでおります。社会から評価される人材を育成するために、今後も尽力いたします」と力強く訴えかけた。

子女の大学生活へご理解を 福井会場 出牛学長



出牛学長が出席した福井支部の懇談会は8月3日、福井市の「福井パレスホテル」で父母ら30人が参加して開催された。

栗原哲朗支部長が主催者側のあいさつをした後、出牛学長が懇談会運営の支部役員の方の労をねぎらい「本日は皆様方から率直なご意見を寄せていただき、大学側との懇談の中でご子女の大学生活に一層の理解を深めていただけますよう、お願いいたします」と呼びかけた。

育友会本部から出席の吉井潔副会長のあいさつに続き、出席者全員が自己紹介をした。水川侑経済学部教授、川村晃正商学部教授らが学業・学生生活全般、就職・進路についての説明を行い、父母からも活発に意見や質問が出された。

昼食をはさんでの個人面談では、出牛学長も面談を担当、父母の対応に当たった。

札幌会場で初の就職懇談会併催

今年初めて支部懇談会と同時に開催された「北海道ブロック就職懇談会」は8月4日、父母30人が参加して、札幌グランドホテルで開かれた。

はじめに大丸藤井(株)人事部の山本一夫人事課長が「採用の現状、企業の採用ポイント」について講演。続いてワイケイケイ(株)住宅建材事業部北海道統括札幌支店に勤務する大畑隼介氏(平13法)が70数社にエントリーして苦闘した、生々しい「就職活動体験談」を披露。最後に就職指導委員の廣石忠司経営学部教授が「専修大学における就職概要について」講演、午後5時に閉会した。

[8月15日/ニュース専修1面]

首都大学院コンソーシアム 単位互換や共同研究 9大学が学術交流で協定



都内の私立大学大学院が単位互換や共同研究を行うことを目的とした「首都大学院コンソーシアム」学術交流の協定調印式が7月18日、千代田区の「アルカディア市ヶ谷」で行われた。本学のほか順天堂、中央、東京電機、東京理科、東洋、日本、法政、明治の計9大学で組織し、実施は03年度からとなる。

参加大学院は社会科学系、理工学系、医学系の約60の研究科を擁する。今までにも同じような専門領域の大学院提携の例はあったが、今回のように幅広い領域にわたっての包括的な提携は初めて。

調印式では、同学術交流推進協議会の幹事校として出牛学長が「長年、首都で研究・教育の中心にあった9大学がそれぞれの独自性を追求しながら、このコンソーシアムを通して、相互に協調・補完していくことが今後の大学院教育に不可欠であり、首都から全国に情報発信していくことが新しい時代の大学院教育を展開する上で有益だと確信している」とあいさつした。

〔8月15日/ニュース専修1面〕

キャンパス探訪〈2〉 建学の心を訪ねて 専修大学発祥のいわれ碑



当時の東京・木挽町に開校した「専修学校」は最先端の法律・経済学を教え、年ごとに入学者が増えて手狭に。1882年(明15)に神田区中猿楽町(当時)に、さらに85年(明18)6月に竣工した神田区今川小路2丁目8番地の新校舎に移った。現神田校舎の地であり、初めての自前の校舎。校名も1913年(大2)「私立専修大学」、19年(大8)に「専修大学」と改めた。

神田校舎正門のスロープにかかる左手の植え込み。高さ1メートルほどの、稲田石とスウェーデン産黒色花崗岩の「専修大学発祥のいわれ碑」が建つ。上部に校章と建学の精神「報恩奉仕」。中央に創立者たちの建学の経緯、その後、神田の地に移り一世紀を迎える概要が刻まれている。揮ごうは書家で日本書道連盟理事長だった故・飯島春敬氏。

[8月15日/ニュース専修1面]